

## 『100キロウォークとシュワちゃんのトータル・リコールと秘境ブータン』の関係

皆さんこんにちは！

暑い夏を乗り切り、やっと作業しやすい秋がやってきました。

夏の疲れを残さないように、秋の食材をたっぷりって体力を回復していただきたいと思います。

と、言いながら、実は来週の10月15、16日は恒例の三河湾100キロウォークです！

体力の限界に挑戦してこそ見えてくる世界、感じる世界、見えてくる自分、感じる自分がある。

そこを共有するためにテクア技研では毎年交代でエントリーしております。

以前はタイムにもこだわっていましたが、最近は学び中心で送り出しています。

今回は三沢隊長、前回のリベンジの河合君、鉄人本田さん、そして新人の木戸君と林君です。

注目はこの2人の新人がどういう歩きを見せてくれるかです。

仕事が忙しく、ろくに練習もすることなく、ぶっつけ本番に近い形で100キロ歩くわけですから、だいたいみんな同じようなことを道中考えています。



- ① (20キロ歩いた時点で)あ～まだこれを4回通りも繰り返すのか～！！
- ② (50キロ歩いた時点で)まだ半分？絶対無理！(もう半分とは思えない)
- ③ (足のどこかが必ず痛くなるので)このまま歩いたら一生足を引きずることになるのでは？(不安)
- ④ (65キロ～70キロ付近で)あ～もう限界！いつギブアップの電話しよう？

練習なしでいきなり挑戦する人は、だいたいみんなこんなことを考えてます。

最後まで歩くか歩かないかの違いは④の状態の自分を認めるか認めないかの違いだと思います。

『限界』の基準は自分の中にしかないもので、その基準値をどこに設定するかで決まります。

といっても、順番で出場しているのが我社の実情ですので、それほど高い基準を最初からもって参加しているわけでもない。では何が完歩する人とリタイヤする人を分けるのか？



それは『人のご縁』ではないかと思えます。

『人のご縁』が自分の中の基準値を引き上げるのではないかと思えます。

完歩した人は完歩した直後は自分の力を誇りますが、あとから自分の歩きを思い返した時、必ずどこかで誰かの助け、温かい声援、叱咤激励、アドバイスなどをいただいたことが最後まで歩けた最大要因だったことに気付くと思います。(もちろんそれに加えて本人の想像絶する頑張りがあったわけですが)

あと何キロ、あと何キロと内向きに考えていた思考回路が、仲間や家族、誰かに喜んでほしい、誰かのためにと外向き回路に切り替わった時に新たな原動力が起動し始める。

練習して参加すると、この原動力が起動する前にゴールしてしまうので、新人さんにはなるべく練習しないで臨むように言っております。

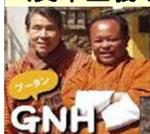
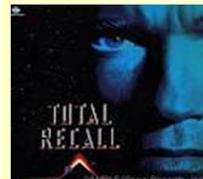


アーノルド・シュワルツェネッガー主演の映画『トータル・リコール』のラストシーンで50万年前にエイリアンが創った、火星で酸素を発生させるための原動力リアクターが起動するシーンがあります。

このリアクターが勝手に起動を始めてしまうと、誰にでもただで酸素が供給されてしまい、

エネルギー採掘業者の利権が脅かされてしまうので、リアクターの存在は支配者によって隠されていました。

シュワちゃんの役目はこの仮想現実の夢から目覚め、このリアクターを再起動させ、火星を人の住める地にするという物語です。(資本主義や原発の問題と重なって考えさせられるSFですね～)



資本主義的な効率、GNP(グロス・ナショナル・プロダクト＝国民総生産)を考えたとき、『わざわざ土日の工事の忙しいときに、社員に100キロ歩かせて何がしたいの？』

という思考の原動力が起動するかもしれませんが、人としての幸福、

GNH(グロス・ナショナル・ハピネス＝国民総幸福)を考えた時にはこのリアクターはぜひ再起動させておく必要があると思います。

幸福の国ブータンに住んでいるわけではないので、

幸福の呼び水として何らかの心身への呼びかけの仕掛けが我々には必要です。

それが100キロウォークだったり、掃除だったりするのだと思います。

ゴール後にじわじわと湧き上がる達成感、幸福感と感謝の念を味わっていただきたいです。

それでは出場者の皆さん頑張ってください！そして応援者の皆さん、良きご縁をよろしくお願いいたします！

感謝！ 羽原篤史

